

平成28年度 学校評価実施報告書

学校名( 京都市立九条弘道小学校 )

## 1 1回目評価

<ul style="list-style-type: none"> <li>・個別評価項目の設定及び各項目にねらいを定めた取組の計画・実施</li> <li>・取組結果を検証するためのアンケート項目や各種指標の設定</li> </ul>			
分野	評価項目	(前年度評価を踏まえた) 自校の取組	(取組結果を検証する) アンケート項目・ 各種指標
確かな学力	<ul style="list-style-type: none"> <li>●授業改善</li> <li>・主体性の育成</li> <li>・言語活動の質的向上</li> <li>・活用能力の向上</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各教科で言語活動を工夫した授業</li> <li>・授業チェックシートを活用した授業づくり</li> <li>・各種調査の分析、取組等の検証</li> <li>・課題に応じた個別学習や土曜学習</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・しっかり話を聞いて相手を意識して進んで発表したりしている。授業はめめてとまると何回確認できたりしている。</li> <li>・ジョイントプログラム等の結果考察</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>●家庭学習の習慣化</li> <li>・書く力の育成</li> <li>・九条学習プラン</li> <li>・九条生活プラン</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・15分×学年の家庭学習習慣の定着</li> <li>・ノート指導の充実、ノート検定</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・15分×学年以上家庭学習している。</li> <li>・ノートをきれいに書いている。(児童)</li> <li>・家庭での学習環境を整えている。(保護者)</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>●読書の習慣化</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・100冊読書の定着</li> <li>・朝読書の定着</li> <li>・読み聞かせの実施</li> <li>・国語科における並行読書</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校でも家でも進んで本を読んでいる。(児童)</li> <li>・家庭では読み聞かせや本によくとふれあわせている。(保護者)</li> </ul>
豊かな心	<ul style="list-style-type: none"> <li>●自他を大切にする態度の育成</li> <li>・人権感覚の向上</li> <li>・自己有用感の向上</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・人権教育「なかよしの日」(難聴・同和・総育・いじめ防止等)や人権月間、人権啓発懸架(毎回)の実施</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校生活が楽しい。</li> <li>・学校の友達となかよくできている。</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>●「公共の精神」に基づく態度の育成</li> <li>・規範意識の徹底</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校のきまりと時間の厳守</li> <li>・挨拶や当番活動の充実と徹底</li> <li>・生活プランの共通理解と実施</li> <li>・キッズボランティアの取組</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校のきまり・予定や時間を守っている。進んで挨拶している。掃除の時間いっぱい責任を持てきれいにしている。</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>●協働活動を通した自己有用感・主体性・豊かな心の育成</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ピア・サポート活動の充実</li> <li>・保護者や大人によるほめ言葉</li> <li>・ふりかえりの場の設定</li> <li>・支え合い高め合う集団づくりの推進</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・組や他学年の役に立っている</li> <li>・「ありがとう」を言ってもらったりやほめってもらったりしている。</li> </ul>
健やかな体	<ul style="list-style-type: none"> <li>●基本的な生活習慣の確立</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「生活リズム表」の意識的活用による生活リズムの定着</li> <li>・「いきいき週間」の取組</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・早寝・早起き・朝ごはん等の生活がいっつも進んでできている。(児童)</li> <li>・守らせているか。(保護者)</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>●命を守る態度の育成</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・命を守る教育の取組</li> <li>・遊びや運動・体験活動を通した心と身体の育成</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・安全に気をつけた行動や家で安全の話を。地域行事等への積極参加</li> <li>・地域行事やPTA行事参加への声かけ(保護者)</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>●アントレプレナーシップ教育の推進</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「ふれあいタウン」の実施</li> <li>・「3Cプロジェクト」の推進</li> <li>・協働活動を通した自己有用感・主体性の向上のための取組</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業後のふりかえり</li> <li>・家庭での手伝い(児童)</li> </ul>
独自の項目	<ul style="list-style-type: none"> <li>●小中一貫教育の推進</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・後期小中連携、小中連携、小中一貫教育の取組推進、アンケート項目の検討</li> <li>・「学習プラン・生活プラン」の試行</li> <li>・児童・教員・PTA会長の交流</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・取組後感想アンケート</li> <li>・表現活動の充実</li> <li>・挨拶や掃除の充実・徹底</li> <li>・家庭学習の定着・学習準備</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>●情報発信の充実</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・積極的なホームページの更新</li> <li>・学校だよりの内容(「学校教育方針」「小中一貫教育」等)の充実</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校の取組がおたよりやHP等よく分かる。(保護者)</li> <li>・学校ホームページへのアクセス数</li> </ul>

自己評価	
評価日	平成28年9月21日
評価者・組織	評価委員会
<p>アンケート実施結果、その他指標の結果について整理</p> <p>アンケート結果、各種指標結果</p> <p>分析 (成果と課題)</p> <p>分析を踏まえた改善策</p>	
<p>・進んでできている児童は83.8%。 ・授業が分りやすい児童は94.1% ・全国学才・学習状況調査(6年)の総合(国・算)結果での正答率は78.3% ・15分×学年以上家庭学習している児童は98.6%。分りやすく書いている児童は80.5%。 ・学習環境を整えている」は84.6%。</p> <p>・できている」の割合は81% ・家庭では39.7%で実現度は3.4でニーズ度は27.1(保護者)</p> <p>・「学校生活が楽しい」児童は93.2% ・「友達となかよく」は97.1%ができてい ・児童のきまりの遵守は37.5%、時間遵守は88.4%、挨拶は95.3%、掃除は93%、きまり遵守の保護者は72.8%、時間遵守(保護者)は77.4%、あいさつは83.7% ・「役に立っている」児童は89%、「ありがたうやほめてもらっている」は91.9% ・ほめている保護者は81.3%。</p> <p>・できている」が90.96.1% ・「守られている」保護者は81.9% ・安全に活動できている」児童は80.9%、行事については79.7% ・できている」保護者は60.8% ・「家での手伝い」は児童79.4%</p> <p>・「文字を分りやすく書く」児童は80.5%、「誰にでも進んで挨拶できる」は95.3%。「学習準備」は88.8%の児童ができてい ・取組が充分な保護者は90.6% ・9/21現在で1330件アクセス(昨年度は年間21453件アクセス)</p>	<p>・昨年度以上に子どもたちは楽しく学校で過ごし、学びの実感をもちながら学習を進めることができているが、7%の子どもがそうではないことと見過ごしてはならない。個の見りと個と個とのかかわりを大切にしたい。 ・「つけたい力」/めあて/「まとも」/ふりかえりを意識した授業の成果が出ている。発展補充学習の成果から基礎基本の力の定着が見られる。 ・読書に関する項目の数値が低い。各種調査では、長文問題や読解問題、活用問題の正答率が低い傾向にある。</p> <p>・一定、学校での約束はきまり守り、誰とでもなかよく過ごしていることが数値からも子どもたちのまてから見てとることができる。一方で、人や場所によって姿を変え、正しい行動をとることができていないという実態がある。 ・学校のかまりを守ることや生活習慣を整えることが子ども成長の中でどのような価値があるのかについての理解が十分でない、優先度が低い。 ・大人は子どもをほめているつもりでも、子どもは「ほめられたい」役につかたとはとらえていない場面があるようである。 ・自己評価と相互評価など、多様な評価を通して2次認知力を高める必要がある。 ・「早寝・早起き」「朝ごはんについてはかなり定着している。しかし、基本的な生活習慣の確立と家庭学習の時間確保を自認した「生活リズム表」に則した生活は十分にできていないようである。 ・地域行事やPTA行事への参加者には偏りが見られるが、これは各行事に「参加すること」に価値を見出している 一方で、複数に参加したことがない児童が一定数に示されている。 ・アットホームなサークル教育に関する子どもの関心意欲は高いが、取組あきすぎる、つけたい力やねらいを明確にした授業を構築していく必要がある。 ・家庭で学校で子どもたちに意図的に役割や活躍の機会を持たせる必要がある。 ・「キャリア・サポート教育の取組も直見」が重要であり、それらの活動の価値やねらいを確かにしながら個別的な指導や仕組みをつくるべきである。 ・ホームページの更新頻度や内容の工夫、学校だよりの内容および構成の工夫などにより積極的な情報発信を怠ることなく、保護者から学校が発信する情報に対する関心が高まった。</p> <p>・「授業振り返りシート」を活用し、「つけたい力」や「ねらい」を顕した授業づくりを行い、自己評価を通して授業改善を行う。 ・「授業チェックシート」の評価項目の、既に実施している数値が出ている項目以外、現在の実施に即した評価項目へ更改する。 ・授業であてを提示し、めあての解決に向けた言語活動を意図的に取り入れる。また、学習を通しての学びをまとめる。児童自身も1時間での学びを振り返るようになる。 ・「家庭学習」の内容や分量、出方などを校内および九条中ブロック内でも検討する。また、家庭への理解推進や学習支援を行う。 ・図書部を中心とした子どもの読書意欲への向上と活用能力の向上を図る。 ・「いつでも」「どこでも」「誰にでも」をキーワードに、全ての教職員が規範意識や自律心の育成を目指して徹底的に指導する。 ・「ほめる」ことを意識した指導を行う。どのタイミングで、どのようにほめるのかを考える。 ・子どもたちに活躍の場や機会を意図的に提供、努力ががんばりぶりを認めることをよりい行動価値を価値づけると共に2次認知を図る。 ・上記3点に加え、家庭・地域ともに共に取り組む機会を持つ。特に、学級懇談会では、保護者の行動目標も持ってもらい、その後の様子を定期的・聞き取るようにする。教職員についても同様に定期的に振り返りの機会を持つようにする。 ・実態把握を通して見てくる課題を表面的にたらしに留まらず、その背景までとらえること、課題の解決を図ることできるようにする。特に家庭における問題は、各家庭の生活実態や状況、家族関係などによる活動も大きく、求めるばかりでは改善は図れない。そういう現状、家庭訪問を重視し、また学校に足を運んでもらえる働きかけを積極的に行う。</p> <p>・子どもは「やりたい」と思いうる育成を第一とする。全ての教育活動において、子どもの主体性を大切にしながら、探究的・課題解決的な学びを推進していく。 ・3校プロジェクト中では、3校共通で取り組んでいることだけでなく、各校や自分自身が独自に行っていることについても積極的に交流する。 ・現在行っている小中一貫教育の取組等の意味、目的を再度確認し、深化させる。 ・「キャリア教育」についてつけたい力を意識した指導を行う仕組みづくりを考え、総合的な学習の時間や生活科を中心とすることで、全ての教育活動を通して指導できるようにする。</p>

学校関係者評価	
評価日	平成28年9月27日
評価者 (いづれかに○)	学校運営協議会 学校評議員
学校関係者による意見	学校運営協議会・ 学校評議員による 改善に向けた支援策
<p>・文字を丁寧に書く力、ノートを自力でまとめる力が大幅に伸びてほしい。『ノート検定』のねらいや成果が切実に感じられる。</p> <p>・『自由研究』の取組に感心した。どの子どもも創意工夫が凝らされており、研究したところを分かりやすくまとめている。</p> <p>・読書に関わる時間が毎年低く、課題になっているが、あまり改善が見られない。読書の時間をとるよさを皆がとるようになると共に、読書の時間を確保することが大切である。</p> <p>・学校だけでなく、放課後まなび教室でも文字を書くことに対する指導をしっかり行いたい。</p> <p>・小中共に、子どもたちが発表する姿は立派である。</p> <p>・地域の体験活動にもっと参加してほしい。そのためには内容を工夫する必要がある。また、まだ参加したことがない子どもをどう引き込んでいくかが大切である。昨日のディナーچェンには全校の4分の1の子どもが参加している。</p> <p>・大人も積極的に子どもとかわかり、顔を覚えてもらい、さらに関係づけて進めていくことで、さまざまな取組がさらに価値のあるものになると思う。</p> <p>・休日の地域行事や学校行事だけでなく、南区間や全市の行事が多く、子どもたちも参加が難しい部分もある。</p>	<p>・学校と学校運営協議会各委員会、放課後まなび教室や学校クラブ、そして保護者など、子どもとかわかり合う場での連携、共通理解を図り、規範意識の向上と自己学力の向上を図る。</p> <p>・学校運営協議会と、学校教育目標の具現化に向けて、子どもでできるところ、地域でできるところ、家庭とを語る会にて、学校、家庭、地域のメンバーと共に語り合う。</p> <p>・『子どもを語る会』に参加するメンバーは、日頃から子どもたちとかわかる機会が多く、学校の取組や今の子どもたちの姿を知るを中心とするようにし、各自自治会やPTA本部より参加を募るようにする。</p> <p>・学校運営協議会の各委員会の体験活動は今後も学校教育活動と協働して行っていく。その際、子どもたちが参加してよかったと思えるような活動を設定できるよう内容を検討する。また、広域活動を積極的にに行い、より多くの子どもが参加できるようにする。</p> <p>・子どもたちの発表の場や各種行事に、学校運営協議会の委員に限らず、より多くの者が参加できるように学校から呼びかけるところに合わせ、学校運営協議会や各自自治会、PTA本部より参加を要請するようにする。</p> <p>・子どものがんばりもしっかりと見取り、具体的にほめていく。</p>
<p>・外国入観光客やゲストハウスの増加が犯罪等の増加につながるのではないかと不安もあるので、今後学校、家庭、地域が共に、防犯教育や安全教育を進めていきたい。</p> <p>・子どもは忙しなく、めりはりをつけて生活できていると思う。メールやテレビ、ゲームなどには慣らないうちにいる。しかし、就寝時刻は遅くなりがちな。子ども自身がそのようにして意識づけをするのが大切。</p>	<p>・『子どもを語る会』は、学校、家庭、地域が意見や考えを交流できる場として行っているので、今年度も安全、生活習慣づくりなどを話題にする。</p> <p>・緊急災害時における避難経路や防災訓練を今年度初めに実施する。今後、所設、学校、学校運営協議会安全委員会とで内容や実施方法を検討していく。</p>
<p>・小中連携、小中連携の取組について子どもたちはどのように感じているのかを知りたい。</p> <p>・学校保健アンケートの質問項目を九条中ブロックで統一するなど、9年間でもを育む機会が一層進んでいる。</p> <p>・ホームページや学校だよりが見やすく分かりやすくなっている。ただし、地域の者はホームページはあまり見ないからといって。学校だより等を巡回した時に皆に読んでもらえるような工夫を今後の検討中。</p> <p>・集団登校時や下校時のあいさつがよく多い。ただし、朝は元気がない子どもが多い。</p> <p>・全体的に子どもたちはよく育っていると思う。</p>	<p>・小中連携の各取組について、教職員や子どもも決して事後アンケートを実施し、その結果等を学校運営協議会内で公表したり、保護者等へも発信することで、関心や理解等を促進させる。</p> <p>・学校運営協議会の取組に『安全講座』や『今年の漢字』などがあるが、さらなる充実を目指し、地域の各種機会などでも広報する。『ふれあいタウン』を含む総合的な学習の時間や生活科の学習でつづいた力を明確にし、子どもたちをよりよく育てていくために「キャリア」教育でつづいた力(九条中ブロック版)を意識した指導を行うことに取り組むようにする。また、そのための仕組みづくりを行う。</p>

# 平成28年度 学校評価実施報告書

## 2 2回目評価

・個別評価項目の設定及び各項目にねらいを定めた取組の計画・実施 ・取組結果を検証するためのアンケート項目や各種指標の設定			
分野	評価項目	(1回目評価を踏まえた) 年度末までの取組	(取組結果を検証する) アンケート項目・ 各種指標
確かな学力	●授業改善 ・主体性の育成 ・言語活動の質的向上 ・活用能力の向上	・各教科で言語活動を工夫した授業 ・授業チェックシートを活用した授業づくり ・チェック項目の再検討および修正 ・各種調査の分析、取組等の検証	・しっかりと話を聞いたり相手意識して進んで発表したりしている。・授業はめあてとまどめが明確で分かりやすい。 ・ジョイントプログラム等の結果考察
	●家庭学習の習慣化 ・書く力の育成 ・九条学習プラン ・九条生活プラン	・15分×学年の家庭学習習慣の定着 ・ノート指導の充実、ノート検定 ・ノート検定(免履編)合格を意識したノート指導と子どもの意識向上	・15分×学年以上家庭学習している。・ノートをいねいに書いている。(児童) ・家庭での学習環境を整えている。(保護者)
豊かな心	●読書の習慣化	・100冊読書の定着 ・朝読書の定着・読み聞かせの実施 ・国語科における並行読書 ・帯時間の活用についての再検討	・学校でも家でも進んで本を読んでいる。(児童) ・家庭では読み聞かせや本によくふれあわせている。(保護者)
	●自他を大切にする態度の育成 ・人権感覚の向上 ・自己有用感の向上	・毎月の人権学習「なまよしの日」の充実 ・人権月間の取組、保護者啓発の充実 ・「なまよしの日」の学習の感想等の発信 ・人権活動の継続 ・挨拶や当番活動の充実と徹底 ・生活プランの共通理解と実施 ・キッズボランティアの取組の充実	・「学校生活が楽しい」児童は91.9% ・「学校の友達となかよくできている」児童は91.2%ができています。 ・「学校生活が楽しい」児童は91.9% ・「学校の友達となかよくできている」児童は91.2%ができています。
健やかな体	●協働活動を通した自己有用感・主体性・豊かな心の育成	・ピア・サポート活動の充実 ・保護者や大人によるほめ言葉 ・意図的なふりかえりの場の設定と工夫 ・支え合い高め合う集団づくりの推進	・「役に立っている」児童は80.4% ・「ありがたい」を言ってもらったりほめってもらったりしている。 ・「役に立っている」児童は80.4% ・「ありがたい」を言ってもらったりほめてもらったりしている。
	●基本的な生活習慣の確立	・「生活リズム」の意識的活用による生活リズムの定着 ・「いきいき週間」の取組 ・家庭との連携と子どもへの働きかけ	・「早寝・早起き・朝ごはん等の生活がいつも進んでできている」(児童) ・生活習慣を整えているか。(保護者)
独自の項目	●命を守る態度の育成	・命を守る教育の取組 ・遊びや運動・体験活動を通した心と身体 の育成 ・安全指導、教職員の危機管理の徹底	・安全に気づけた行動や家で安全の話をする。・地域行事等への積極参加 ・地域行事やPTA行事参加への声かけ (保護者)
	●アントレプレナーシップ教育の推進	・「ふれあいタウン」の実施 ・「3Cプロジェクト」の推進 ・協働活動を通して自己有用感・主体性の向上のための取組	・授業後のふりかえり ・家庭での手伝い(児童)
独自の項目	●小中一貫教育の推進	・ねらいを明確にした協働小中連携、小中連携、小中一貫教育の取組推進 ・事後アンケートの実施と発信 ・九条中ブロックキャリア教育の充実	・取組後感想アンケート ・表現活動の充実 ・挨拶や掃除の充実・徹底 ・家庭学習の定着・学習準備
	●情報発信の充実	・積極的なホームページの更新 ・学校だより内容(「学校教育方針」「小中一貫教育」等)の充実 ・情報発信の内容や方法等の工夫	・学校の取組がおたよりやHP等でよく分かる。(保護者) ・学校ホームページへのアクセス数



自己評価	
評価日	平成29年2月28日
評価者・組織	評価委員会
アンケート結果・各種指標結果	分析 (成果と課題)
・アンケート実施結果、その他指標の結果について整理	分析を踏まえた改善策
・進んでできている児童は82.6% ・授業が分かりやすい児童は91.5% ・6年ジョイントプログラムの総合(4教科)平均正答率は88.3%	・国語科を中心に「表現力」の育成を図り、身につけた力をあらゆる教育活動の中で活用することを重視した。これにより日々の実践の中に生きた研究を進めることができ、子どもたちの表現力を高めることができた。 ・「言語活動を工夫した授業、ねらいとつづいた力を明確にした授業づくりを意識づけ」る「授業振り返りシート」(教員用)による授業改善が成果として挙げられる。 ・「ノート検定」「パワーアップスタディ」などの取組が定着し、子どもの学びに向かう基礎力の向上につながっている。
・「15分×学年以上家庭学習している児童は82.3%、分かりやすく書いている児童は84.6%」 ・「学習環境を整えている」は85.2%	・「15分×学年以上家庭学習している児童は82.3%、分かりやすく書いている児童は84.6%」 ・「学習環境を整えている」は85.2%
・「学校生活が楽しい」児童は91.9% ・「学校の友達となかよくできている」児童は91.2%ができています。	・「学校生活が楽しい」児童は91.9% ・「学校の友達となかよくできている」児童は91.2%ができています。
・「児童のきまりの遵守は93%、時間遵守は84.5%、挨拶は87.7%、掃除は86.3%、きまり遵守の保護者は68.5%、時間遵守(保護者)は63.9%、あいさつは94.4%もある。	・「学校生活が楽しい」児童は91.9% ・「学校の友達となかよくできている」児童は91.2%ができています。 ・「児童のきまりの遵守は93%、時間遵守は84.5%、挨拶は87.7%、掃除は86.3%、きまり遵守の保護者は68.5%、時間遵守(保護者)は63.9%、あいさつは94.4%もある。
・「役に立っている」児童は80.4% ・「ありがたい」を言ってもらったりほめてもらったりしている」は90.5% ・ほめている保護者は77.4%	・「役に立っている」児童は80.4% ・「ありがたい」を言ってもらったりほめてもらったりしている」は90.5% ・ほめている保護者は77.4%
・「できている」児童は88% ・「整えている」保護者は80.5%	・「できている」児童は88% ・「整えている」保護者は80.5%
・「家での手伝い」は児童74.7%	・「家での手伝い」は児童74.7%
・「文学を分かりやすく書く」児童は84.6% ・「誰にでも進んで挨拶できる」は87.7% ・「学習準備」は90.4%の児童ができています。	・「文学を分かりやすく書く」児童は84.6% ・「誰にでも進んで挨拶できる」は87.7% ・「学習準備」は90.4%の児童ができています。
・取組がよく分かる保護者は91.7% ・2/28現在で23866件アクセス (昨年度は年間21453件アクセス)	・取組がよく分かる保護者は91.7% ・2/28現在で23866件アクセス (昨年度は年間21453件アクセス)



## 学校名( 京都市立九条弘道小学校 )

学校関係者評価	
評価日	平成29年3月7日
評価者 (いづれかに○)	○学校運営協議会 学校評議員
学校関係者による意見	学校運営協議会・ 学校評議員による 改善に向けた支援策
・子どもたちは何事にも真面目に取り組んでいる。話し方や聞き方もよく、行事等を仲間と協力して行う姿がすばらしい。 ・今の子どもたちの家庭での状況を見ると、家庭で読書の時間を取ることは難しいのかもしれない。学校で読書の時間を確保しているのであれば、「本は好きか」と問うことも必要かもしれない。 ・後期では、子ども自身が自ら考えたり判断したりしながら行うことが求められるような場面や学習がたくさんあったために、子どもたちは学習に楽しさを感じたとされる。実際にそこまでの落ち込みは見られない。	・発表する力は定着してきたが、内容を深めるような対話はまだまだできていない。今後は相手の話をどのように聞くかを意識し、聞く力の向上を図る。 ・地域行事の中にも子どもたちが活躍できる場面を設定していく。 ・学校生活の中で本に親しむ機会は引き続き持つようにする。また、家庭でも本にふれる時間を生み出すための努力目標を設定いただくなど、具体的な方策を考え実践する。 ・各取組が子どもに返っているのか、都度検証しながら、改善を図るという意識を持つと共にそのための場を定着させる。
・前期と比較して、全体的な数値の落ち込みは見られるが、随分と高い数値であることはまちがいない。数値が下がったのは、子ども自身が自らを厳しく評価することができるようになったからとも考えられる。 ・以前放課後に見られた子どもたちの不適切な言葉づかいや行動が減った。また、あいさつがよくなった。 ・地域行事にたくさんの子どもや教員が参加し、学校、子どもと地域の距離が非常に近くなった。 ・他の家庭の子どもたちも共に育もうと考える保護者が増えている。	・今取り組んでいることをより今の子どもと保護者に届かせるために、内容を検討していく必要がある。そのためにも、子どもと保護者の実情を把握し、思いや考えを受け止めることが課題を進める。 ・「学習プラン」「生活プラン」を学校で指導するだけでなく、家庭・地域にも浸透させ、子どもたちが身につけるべき事柄を同じ姿勢で教えていけるようとする。 ・懇談会や学校運営協議会、PTA総会等に、できる限り多くの方に参加いただけるようこれまで以上に呼びかけたいと共に内容や運営方法等を工夫・改善する。
・「自分の生命は自分で守る子」をめざし、安全委員会の取組を進めてきたが、新たに取組んだ「避難所体験学習」では、学校、地域、区役所、消防署、警察署の連携を図り、有事に備え、組織的に動くことを知ることができた。 ・「いきいき週間」は、全てを○にはできないが、保護者も児童も生活習慣を意識する大きなきっかけとなっている。	・「いきいき週間」は継続し、「保健だより」等で健康教育への理解推進を図る。また、メール配信を活用した保護者への呼びかけも検討する。 ・避難所体験学習を3か年計画で実施する。(知る一考一実行)また、子どもや保護者の防災に対する意識を高め、地域の防災訓練に参加するような大きなきかけとなっている。
・子ども同士が同学年間、異学年間共に優しくかわることができている。 ・地域との距離が近くなり、登下校時に子どもかあいさつをする姿が増えた。 ・学校の取組や児童の様子を積極的に発信されているのでよいと思う。ただし、お便りやHP等をほとんど見ていない人もいようなので発信方法にさらなる工夫も必要である。 ・「ふれあいタウン」では、趣向を凝らした多様な発表ができてよかった。地域とのつながりを大切に取組もあるのがよいと思う。	・HPや学校だよりで学校や各学年の取組だけでなく、小中連携の様子についても発信はされているが、より広く広報するために、校内外の掲示板を活用しての情報発信も行う。 ・学校だけでなく学校運営協議会を客観的に評価し、改善していくための評価の仕組みを検討する。地域の役員も固定化しているため、新たな人員の加入による活性化を図る。 ・「学校・家庭・地域・子ども」の連携がうまく回っており、伝統となっている行事もある。これらは工夫・改善しながら継続していく。

## 3 総括・次年度の課題

・確かな学力の定着に向けた取組や成果は、関係者より一定の評価をいただいた。次年度は、次のことに重点をおきながら、取組のさらなる充実と教員の授業力向上を図る。 【重点】①全ての教育活動を通して、主体的に学びに向かう子ども、社会の一員として自己の責任を果たす子どもへの育成をめざす。 ②対話的な学びを生み出す授業を展開する中で、生きて働く知識・技能の習得をめざす。 ・小中一貫教育の中で、「3校共通の取組や重点」と「特色ある自校の取組の推進や本校教育の深化」とを区別しながらも有機的に関連させていくことを考え、実践を進める。 ・開かれた学校づくりのさらなる推進のため、次のことを大切にしたい学校運営を進める。①家庭・地域の意向を反映すること、またその機会を年間を通じて設定すること、②学校教育に地域の資源や教育力を活用すること、③総合的な学習の時間や生活科、特別活動、学校行事を中心として、家庭・地域との連携を図ること、また、それらの活動を通して地域コミュニティの拠点として学校を機能させること
---